

実践事例 10

ビデオチャットを利用した訪問学級生徒と通学生の同時授業			
キーワード	訪問学級、自立活動、学習機会の保障、face time、遠隔授業		
学年 領域・教科	高等部3年 訪問学級 自立活動	単元名	みんなで楽しもう～音楽交流～
使用したアプリ等の概要			
アプリ名等	・face time		
このアプリで できること	<ul style="list-style-type: none"> ・端末間でテレビ電話のように（ビデオチャット）、相手を見ながら会話ができる。 ・そのため、企業でも、テレビ会議システムとして導入している事例がある。 		
授業の概要			
授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・声や音がする画面の方向に顔を動かしたり、画面を注視したりする。 ・画面を通して聞こえてくる音を聞いたり、画面を見たりして、表情や体の動きなどで自分の気持ちを表す。 		
ICT活用の 概要	<ul style="list-style-type: none"> ・通学生を対象に高等部合同自立活動で取り組んだ音楽療法の活動を、face timeで家庭に中継することにより、部分参加できるようにする。 		
児童生徒の変容と授業の評価			
<ul style="list-style-type: none"> ① iPadを使用しなかった際に考えられる児童生徒の様子 <ul style="list-style-type: none"> ・後日、友達が行った様子をビデオで視聴する活動になったと考えられる。 ② iPad使用時の、児童生徒の様子の変化と授業の評価 <ul style="list-style-type: none"> ・画面を通して聞こえてくる友達や教師の声を聴いて、興味をもったのか、画面から賑やかな音が流れてくると、ヘッドレストから頭を離して音源を探していた。 ・画像と音声のタイムラグがほとんどなく、学校にいる外部講師からの言葉掛けや楽器演奏に対して瞬きや表情で気持ちを表すことができた。 ・楽器遊びの場面では、学校で活動している友達と順番で、講師の伴奏に合わせて楽器を鳴らすことができた。 ・友達が楽器を鳴らすのを聞いたり、自分も鳴らしたりする活動を繰り返すことで、演奏中、自分から腕を動かす姿が見られた。 ・画面に映る相手によって、少し緊張したような表情で視線を逸らし続けたり、笑顔になったりして、感情の違いを表すことができた。 ・自宅にいながらも集団の一員として活動することができた。 			